

Interface

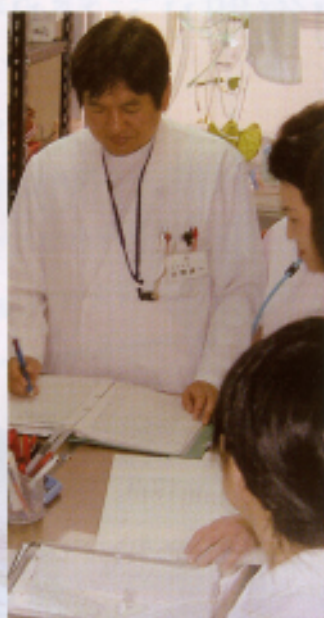
MIYUKI HOSPITAL MAGAZINE

インターフェイスとは「つなぐ部分」のこと。この広報誌を皆様とのつながりのきっかけにしたいと考えています

御幸病院広報誌
【インターフェイス】



2008.
Newyear
Vol.1



B e s t R e h a b i l i t a t i o n

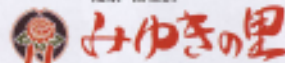


●特集

チーム医療で健康生活の ベストパートナー 回復期リハビリテーション医療

- みゆきの里創立25周年 感謝の夕べ
- 地域のドクターからのメッセージ ●和楽ってこんなところ!
- 今後の行事予定 ●ニュースリリース ●担当医表

健康・福祉21



みゆきの里グループ

- ◆経費老人ホーム 富貴苑
- ◆ケアハウス ピオニーガーデン
- ◆ウェルネススクエア 和楽
- ◆介護老人保健施設 ぼたん園
- ◆特別養護老人ホーム みゆき園
- ◆小規模多機能ハウス ほがらか

創刊にあたって



医療法人 博光会 理事長

富島 三貴

Miki Tomishima

日頃よりみゆきの里御幸病院をご愛顧いただき心から御礼申し上げます。

当院は昭和57年に診療を始めてお陰様で昨年25周年を迎えることができました。これも偏に皆さま方のご指導・ご協力の賜物と感謝致しております。

この間、保健・医療・福祉の連携を基本に、夫々の充実を図りながら取り組んで参りました。今後もスタッフ全員が一丸となって努力し続け、皆様に選ばれる病院・施設になるよう努力して参ります。この広報誌をお手元にお届けし、みゆきの里グループの取り組みと現状をご紹介します。同時に皆様のお声をお聞かせいただくきっかけにしたいと思います。皆様とみゆきの里との対話が深まりますことを祈念して、創刊のご挨拶とさせていただきます。

チーム医療で健康生活の ベストパートナー

● 特集

回復期リハビリテーション医療

職域を越えたチームで取り組む 回復期リハビリテーション医療

高齢社会を迎えるにあたり、当院が力を入れているのは回復期リハビリテーション医療。寝たきりの患者様が一人でも減り、自立することで、張りのある毎日を送ってほしいとの思いから、平成18年7月にスタートしました。そんな回復期リハビリテーション病棟があるのは、美しい田園風景が見渡せる環境の中。40床の病棟に、専従医(Dr)1名、看護師(Ns)16名、介護職8名、理学療法士(PT)8名、作業療法士(OT)6名、言語聴覚士(ST)1名、相談員(MSW・兼務)4名の総勢40名以上が配属されています。

当院の回復期リハビリテーション医療の大きな特徴は、一人の患者様に対して、常に複数のスタッフに関わる「チーム医療」です。Dr、Ns、PT、OT、ST、介護職、MSW、薬剤師、管理栄養士など、患者様に関わるすべてのスタッフが職域を越えて連携することで、患者様一人ひとりの現状を的確に把握し、早期の在宅復帰、社会復帰ができるようにしています。

自宅に近い環境で日常生活を再現

回復期リハビリテーション病棟の一日は、着替えから食事、排泄、入浴や各療法にいたるまで、すべての行動が訓練です。「日々の生活の中で自分ができることに目を向けること。各療法などを通じて、多くの時間と行動を共に



B e s t R e h a



することで得られる精神的共感が、次のステップに繋がっていきます」と黒土リハビリテーション室長。

院内には、日常生活の状態がスタッフだけにはわかるように、杖や歩行器を色分けした工夫など、患者様の立場にたったこだわりが随所にあります。病棟と訓練室を同じフロアに配置しているのも、患者様の病状変化への早急な対応とともに、看護師やリハビリテーションスタッフの連携を密に図るためです。また、理学療法と作業療法を同じ部屋で行い、1日のリハビリテーションの内容を的確に把握し、短期間で集中的に行うことで、患者様のオーバーワークにならないように常に配慮しています。浴室も一般的な家庭サイズのものを設置し、できる限り自宅に近い環境を整えています。

退院後の環境を把握し、 その方に必要なケアを

「リハビリテーションとは、社会復帰ができるようになることなのです」と語る黒土室長。社会や地域における、患者様を取り巻く環境に重点を置いたリハビリテーションを行う当院では、入院後早い時期に、リハビリテーションスタッフ、Ns、MSWと患者様による自宅訪問を実施しています。家庭内の段差や周辺の交通機関など、行動範囲内の環境を把握することで、一人ひとりに合ったリハビリプログラムの構築が可能になります。そして退院前にも再訪問を行い、今の状況で患者様ができることと周りの状況を再確認し、必要に応じて住宅改修などのアドバイスも行っています。

今後さらに強化したいのが退院後訪問と訪問リハビリテーション。病院で出来ていたことが自宅ではできないことがあり、ケアマネージャーや在宅サービス部門との業種を超えた連携を深めて、退院後の状況確認からフォローまで行いたいと考えています。

メンタル面もトータルサポート

「アロマ認定資格を持ったスタッフによるアロマセラピーが人気ですよ」と患者様の様子を教えてくれる井看護師長。どうしても精神的に疲れやすい入院生活。気分に合わせて香りもたらす安らぎは、メンタル面でのサポートに一役買っています。また、楽しみながら、できることを増

やす、毎日のレクリエーションなど、メリハリのある入院生活を送るためのプログラムも充実しています。当院は、明確・的確な医療サービスにあわせて、障害があっても尊厳をもって生活できる最良のリハビリテーション医療を提供しています。

b i l i t a t i o n



研究会等にも参加・発表しています

- ◆全国
リハビリテーション・ケア合同研究大会
回復期リハビリテーション病棟連絡協議
会研究大会
- ◆熊本
大腿骨頸部骨折シームレスケア研究会
K-stream(脳卒中地域連携バス)
回復・維持期リハを考える会

ご
あ
い
さ
つ
C
r
e
a
t
i
o
n



御幸病院 院長 吉田 健 Ken Yoshida

私共の施設は、昨年25周年を迎えることができました。この間、皆様方にはいつも御協力、御支援をいただいておりますこと、厚く御礼申し上げます。

御幸病院は今年もたくさんの課題がございます。介護療養病棟の廃止(平成24年)への対応としての病棟再編成、また本年春から開始される特定健診・特定保健指導への対応、また秋には病院機能評価受審(更新)を予定しておりますのでその準備にも取り組んでいるところです。

変化を繰り返す医療情勢ですが、さらに地域の皆様によりに頼りにしていただける医療機関をめざして研鑽してゆきたいと存じます。

今年も宜しくお願い致します。

みゆきの里 創立25周年 感謝の夕べ

MIYUKI HOSPITAL **25th**
ANNIVERSARY

みゆきの里は平成19年3月1日、創立25周年を迎えました。そこで去る12月10日、ホテルキャッスルにて記念祝賀会「みゆきの里 創立25周年感謝の夕べ」を開催させていただきました。

当日は祝賀会に先立ち、御幸病院名誉院長・長尾和治と、菊池養生園名誉園長・竹熊宜孝先生との、「統合医療の、むかし、今、そしてこれから」と題した特別対談が行われました。熊本における統合医療の歴史を、ユーモアを交えて軽妙洒脱に語られる竹熊先生に、長尾名誉院長もたじたじ。時には笑いを、時には感心を誘うこの対談は、ご来賓の皆様にも大変好評でした。

特別対談に続き、みゆきの里会長・富島博のご挨拶で祝賀会が開幕。保健・医療・福祉の他、政治・経済界からも多数のご来賓をお迎えし、各界代表の方々より、心のこもったご挨拶と祝辞をいただきました。さらに壇上では、みゆきの里の喜びをさせていただいたご来賓の皆様のお手により鏡開きが行われ、元熊本市会議員・島永慶孝様の音頭で、乾杯となりました。

みゆきの里 創立二十五周年感謝の夕べ 記念祝



皆様が歓談される中、スクリーンでは、11月1日オープンしたばかりの小規模多機能ハウス「ほがらか」を始め、みゆきの里の各施設を紹介するスライドショーが上映されました。

最後に医療法人博光会理事長・富島三貴よりお礼のご挨拶を申し上げ、地元の熊本県会議員・中原隆博様のご発声による三本締めで、祝賀会を無事閉会いたしました。

地域のドクターからの Message メッセージ

時代は流れても『まず人を診る』医療でありたい



後藤内科クリニック院長
後藤和夫先生

私が子どものころの御幸小は1学年がせいぜい2クラスまでのちっぽけな片田舎の学校でした。毎年梅雨時期になると加瀬川や天明新川が氾濫し、木部や西無田など地勢の低い地域は一面水没してしまい、生徒たちは小船で登校する始末でした。私の実家は江戸時代から継々と続いたこの地域ただ一つの医療機関であったようで、軍医上りの祖父は今から思えばずいぶん荒っぽい治療を行っていたものです。外傷の患者を押さえつけて、勿論麻酔などなしで、切開縫合をすることなどしょっちゅうでした。包帯やガーゼは手洗いで再利用したものです。父は終戦直後の無給医局員のころ夜間の代診を引き受けていましたが、夜中に重症の急患が発生すると近所の男達を集めて患者を戸板に乗せ、松明を灯して市内の病院まで運んで行ったこともあるそうです。

昭和36年に国民皆保険が導入されましたが、田舎の小医院ではまだまだ「盆暮のある時持いの薬代」の時代でした。小学生のころ、祖父に命じられて手

書きの薬代の請求書を患者に配って回ったことがありました。同級生の農家の軒先に立ち、その余りの貧しさに息を呑んだ記憶が今も頭から離れません。

あれから半世紀近く経ち、この地区の様相も一変してしまいました。人口は3倍以上に増え、日本中どこにでもある地方都市郊外の住宅地へと変貌しています。数十年のブランクを経て後藤医院を継承してから13年になりますが、その間2つの基幹病院が近くに引っ越してきました。近隣の病医院も急増し、医療のアクセスは格段に良くなりました。

しかしながら、医業と他の業種の一番の違いはその取り扱う対象が常に『病める生身の人間』であるという点であり、それに対処するためには『まず人を診る』という視点が大切であることは今も昔もまったく不変です。これからも自分の体内に流れている『医の心』を大切にしながら、より効率的な医療のあり方を模索していきたいと思っています。

後藤内科クリニック
〒861-4172
熊本市御幸筋田 4-14-23
TEL096-370-1110

特集 和楽 WARAKU って こんなところ! Vol.1

ウェルネス
スクエア



ウェルネススクエア和楽は、健康で生き
生きとした生活を送っていただくためのサ
ポートを行う、地域に開かれた**多機能型**
コミュニティ施設です。御幸病院とみゆ
きの里が長年取り組んでいる「疾病予防」を
推進する施設として活躍しています。

●健康増進のための三本の柱

「天然温泉」

「自然食レストラン」

「運動機能向上トレーニング」

ウェルネススクエア和楽の主となる事業は三つ「天然温泉」・「自然食レストラン」・「運動機能向上トレーニング」です。それぞれがみゆきの里の他の施設(6施設)と連携して、地域の皆様の健康増進に役立っています。

●天然温泉



天然のナトリウム・塩化物泉の入浴施設です。効能は筋肉痛・関節症・打撲・捻挫・冷え性・慢性婦人病など。薬草を使用した「薬湯」や、無理せず歩行訓練が行える「歩行浴」、身体にやさしい「ミストサウナ」など、様々なバリエーションもご用意しています。「温泉入浴指導員」も配置し、正しい入浴のアドバイスをしています。心身のバランスを回復させ自己治癒力を促す働きのある、「音響療法」も人気。内分泌系や自律神経等の乱れを整える働きがある「音」を用いることにより、本来持っている自己治癒力の向上と病気・老化の予防や健康増進を目指す療法です。

疾病予防を推進する「多機能型コミュニティ施設」です。

●自然食レストラン:田園キッチン



自然食レストラン「田園キッチン」は、「身土不二」「一物全体」(主体は穀物)を基本コンセプトに、マクロビオティック(玄米菜食)を取り入れた、安全で美味しいお食事を提供しています。毎月8と9のつく日(8, 9, 18, 19, 28, 29日)は、「89(やく)」にかけて「菜膳の日」と称し、夕食に、美味しく健康によい菜膳料理を提供しています。

●運動機能向上トレーニング



ウェルネススクエア和楽2階のトレーニング室では、各種の運動機器と専属のスタッフを揃え、高齢者の方々の体力づくり(パワーリハビリテーション)や、健康な方がより健康になるためのトレーニングなどを行っています。現在、熊本市国民健康保険課の委託を受けて、メタボリックシンドローム(及びその予備軍)の方々を対象とした、「選んだりヘルスアップコース」を実施中。健康運動指導士の下でのジムトレーニング、自然食中心の食事、温泉を利用した湯中運動など、毎週1回3ヶ月のコースで、皆様の健康増進のお手伝いをしています。

●和楽ウェルネススクール開講中

地域の方々の「養生の実践の場」のひとつとして、ウェルネススクール健康管理コースを開講しています。内容は、女性専科の「ヘルスビューティーコース」と、すっかりボディータンニングを目指す方向けの「誰でも挑戦アクティブコース」の2種類。それぞれ3ヶ月間(全24回)で、毎回の入浴や月1回の食事のほか「体組成測定」や「健康講座」等も含んでいます。

各事業についてのお問い合わせなどは、和楽総合受付(096)370-2244まで、お気軽にお尋ねください。

- 1/11 みゆきの里 どんど焼き
- 3/1 みゆきの里 創立記念日 創立記念式典



■ 担当医表 Charge medicine table

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|----|----------|----------|----|----------------|----------|-----|
| 午前 | 津出 長尾 | 吉田 | 吉田 | 川野 長尾 | 吉田 江原 | 担当医 |
| 午後 | 高野 | 牛島 長尾 | 高野 | 牛島 長尾 廣瀬 | 津出 | |

・王研究員の漢方相談…毎週月・水・金の午前

| | |
|----------|-------------------------|
| 長尾名譽院長 | 外科(鍼灸漢方)・健康相談を担当します。 |
| 吉田院長 | |
| 津出診療部長 | |
| 川野内科医長 | 内科を中心として、種々の診療を担当します。 |
| 牛島医師 | |
| 本田医師 | |
| 高野医師 | |
| 磯貝ホスピス医長 | 緩和ケア病棟の入院相談を随時受け付けます。 |
| 鈴木医師 | 要予約。 |
| 廣瀬医師 | 整形外科を担当します。 |
| 江原医師 | 呼吸器・アレルギー疾患・心療内科を担当します。 |

- リハビリテーションの担当医: 吉田、津出
- 緩和ケア病棟への入院相談 毎週火曜日 13:30~16:00(要予約)
担当: 磯貝・鈴木

小規模多機能ハウス「ほがらか」がオープンいたしました。



みゆきの里の7番目となる施設、小規模多機能ハウス「ほがらか」が昨年11月1日にオープンいたしました。小規模多機能ハウスとは通所・訪問・ショートステイといった各種サービスを組み合わせ、地域のお年寄りの皆さんが24時間365日、安心して生活できるようにサポートする施設です。

1日に執り行われたオープン式典は、地域から多くのご来賓の方々をお迎えして、代表者によるテープカットで開始されました。その後、ほがらか内部のロビーにおいて富島会長が挨拶し、ご来賓を代表して中原県議と緒方御幸校区社会福祉協議会会長が施設完成の祝辞と、「ほがらか」が地域に果たす役割についての期待を述べられました。

みゆきの里の一番新しい施設、小規模多機能ハウス「ほがらか」を、今後もお楽しみいたします。

みゆきの里全施設合同の防災訓練が行われました。



11月12日、みゆきの里全施設合同の防災訓練が行われました。この訓練は地震が発生して全施設に被害が及び、ぼたん園では火災が発生するという想定で行われたものです。御幸病院を始めとする、みゆきの里の各施設の職員約100名が参加。御幸地区の熊本市消防団第29分団の方々、消防車7台を含む熊本市健康消防署員の皆さんにもご協力をいただいていたので、大規模なものとなりました。

当日は緊急一斉通報のもと、出火したぼたん園に各施設からの応援の職員が集まり、避難誘導を行いました。また、ぼたん園屋上より動けなくなった被災者をはしご車で救出するなどの場面もあり、それらはすべて、災害対策本部に逐一報告されていました。

私たちは、地域の人々、利用者をご家族の幸せを願い、保健・医療・福祉の総合力を発揮して、健康生活のベストパートナーとなることを目指します。



医療法人博光会

御幸病院

【診療科目】

内科・呼吸器科・消化器科・循環器科
小児科・歯科・リハビリテーション科
麻酔科(ペインクリニック)[医師:岡崎止雄]

【診療受付時間】

平日 午前8時30分~午後5時
土曜 午前8時30分~午前12時
※但し急患は何時でも受け付けます。



- 緩和ケア病棟: 20床
- 一般病棟: 30床
- 回復期リハビリテーション病棟: 40床
- 介護療養型病棟: 96床
- 併設: 訪問看護ステーション「みゆきの里」

奥付

発行/医療法人博光会 御幸病院
〒861-4172 熊本市御幸館田6-7-40
TEL.098-378-1168 FAX.098-378-1762
メールアドレス info@miyukinosato.or.jp
編集/株式会社 阪

詳しくはホームページをご覧ください <http://www.miyukinosato.or.jp/>